

第3回生涯学習センター運営協議会

〔日 時〕2012年6月30日（土）10:00～12:00

〔場 所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委員：小川 久江（副会長）、岩本 陽児、川島 演、黒田 純子、佐合 昭浩、菅谷 万里子、
竹葉 かほる、富川 尚子、中村 香、並木 修、西原 要四郎
以上 11名

事務局：熊田センター長、小林課長補佐、外川統括係長、丸山主事（記録）

〔欠席者〕石川 清、辰巳 厚子、柳沼 恵一

〔傍聴人〕3人

〔資 料〕・第3回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・生涯学習NAVI～好き！学び！～」事業概要・年間計画表、原稿依頼
- ・生涯学習NAVI～好き！学び！～ 6・7月号
- ・2012年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート 資料1～資料20
- ・市民大学2012年度後期講座
- ・2012年度市民企画講座について
- ・センター長報告
- ・町田市生涯学習センター運営協議会設置要項（改正後）
- ・さがまちコンソーシアム事業案内2012
- ・生涯学習センターイベントカレンダー 7月
- ・平成24年度東京都公民館連絡協議会委員部会全体会及び第1回研修会のご案内
- ・「町田市障がい福祉事業計画」に盛り込んでいただきたい内容について
- ・「町田市生涯学習センター」への提言

<協議事項>

1. 生涯学習NAVIについて

事務局：生涯学習NAVIは、市民の生涯にわたる学習を総合的に支援するために、生涯学習に関する情報を広く収集することで、市民の学習ニーズに応じた情報提供の充実を目指すことを目的としている。以前は、春・秋の年2回発行していたが、今年度より2か月に1回の発行をする。発行の時期・回数については資料のとおりである。内容は、市内の大学等を含めたイベント情報、生涯学習センターのトピックス、コラムである。情報だけではなく、コラムのような読み物のページを取り入れていきたいと考えている。また、特集号を年2回発行する。特集号の表紙は放送大学で印刷を依頼し、カラー刷りとなる。昨年度の生涯学習NAVIの内容については次ページを参照いただきたい。発行部数は5,000部を予定している。

今回、コラムの執筆をセンター運協委員の方をお願いしたい。一般公募の方1名、それ以外の方1名の計2名の方に執筆していただければと考えている。また、今後の生涯学習NAVIの特集やコラムについてもご意見をいただきたい。

（意見・質問）

委員：コラムはどのような位置づけか。

事務局：生涯学習NAVIは、庁内や大学のイベント等、情報のみを掲載しており、読み物がない。コラムやトピックスを盛り込みながら、より手にしていただけるものにしたい。生涯学習センターとしての紙面はこれだけになるので、もっと充実していきたいと考えている。

委員：初めのコラムはセンター長や委員長が趣旨を書き、次号以降に一般から公募するというように、双方向の学びの媒体にしていきたいと記載したほうが良いと思う。

事務局：他で生涯学習センターがどのような目的で開設したのか、その経過や内容について執筆している。同じような内容になってしまうとあまりよろしくない。

委員：生涯学習NAV Iは非常に参考になると感じている。学習機会を探している方にとって、この情報誌はシンプルでわかりやすい。生涯学習NAV Iに関する感想等はきているのか。

事務局：今のところはない。職員間で表紙が殺風景だったという感想があった。また、今回は記事を部署ごとにまとめているが、次回はカテゴリー別に編集していくことを検討している。

委員：項目が並び、見やすいと思う。国際交流センター等は対象にならないのか。

事務局：毎回、全庁に情報提供の依頼をしている。その中でNAV Iへ載せてもいい情報だけを掲載している。

委員：各施設・大学の生涯学習に関する主なイベントすべてを載せているわけではないのか。

事務局：生涯学習センターではなく、主管課で載せていい情報かどうかを判断している。

委員：記事掲載の依頼が多くきた場合、ページは増やすのか。

事務局：増やす予定である。さらに多くの情報を様々なところから集めたいと思っているので、呼びかけを拡大していく方向で考えている。今号は6・7月のイベントのみを掲載し、申込みが終了したものについては載せていない。あくまでもこれから申込みができ、参加可能なものしか載せていない。時期によって情報量が変わるが、載せられるだけ載せていきたいと考えている。

⇒ コラムの執筆者：佐合委員、富川委員

2. 2012年度生涯学習センター事業の企画について

事務局：資料の訂正について、資料3事業内容欄の⑤に公開講座とあるが、正しくは④が公開講座となる。資料19事業内容欄の「映像をみながら」と実施結果欄の「の増大」の一文を削除していただきたい。

事業評価シートの見方を説明する。事業番号は事業体系表の施策区分・事業区分の記号を記載している。事業区分は、従来行われてきた公民館の機能を引き継いだ事業、市民大学から引き継いだ事業、また、新たに生涯学習センターとして行う事業とに分けている。今回配布した資料では、新規事業、継続事業と記載しているが、今後はこのような形にしたい。手法は、生涯学習センターが単独で企画・運営しているのか、又は他の機関と共催しているのかを分けている。形態は、講義・講演・参加型を選択する。実技を入れるか検討しているところである。事業名、対象、参加費、保育の有無、周知方法、実施予定日、会場、実施目的をそれぞれの事業に応じて記載する。募集・参加状況は、前回までは目標と結果を入れていたが、目標人数や目標受講率はなくし、実際の人数を入れるように変えた。募集人員は定員、応募者数は申し込みをされた人数、受講者数は延べ人数を記載する。受講率は延べの受講者数を募集人員に回数を乗じた数で除すという考え方と、参加が確定した人数で除すという考え方があり、まだ検討段階である。内容は企画の段階で記載し、企画後に変更や追加があった場合は、事業評価の際に反映して記載する。実施結果の参加者の声は、受講後のアンケートの感想をそのまま記載している。アンケートに基づいた分析・課題を下欄に担当者が記載する。

(意見・質問)

副会長：どのように評価をするのか。

事務局：講座を担当する職員とその事業の係長職で話し合いの上、評価をする。

委員：今後、事業区分はセンター事業、公民館事業、市民大学事業という表記になるのか。

事務局：そうなる。

委員：併記できないか。例えば、公民館事業の新規事業というような記載にしたらどうか。今まで行ってきた事業なのか、全く新しく行う事業なのかが分かったほうがいい。評価にも繋がってくると思う。

事務局：前年の総合評価欄で、新規か継続かと表記してもいいと考えている。

副会長：受講率はどう出せばよいか。何かご意見はあるか。

委員：受講率は単純で分かりやすい指標のほうが良いと思う。

委員：2通りの考え方がある。その講座に対してどのくらい関心が高く、どのくらいの反応があったのかを見たいのか、あるいは、参加を決めた方がどのくらい受講したのかを見たいのか、2

通りの評価の仕方がある。何を求めたいのかが知りたい。

事務局：当初は、参加を決めた方のうち、どのくらいの方が受講しているのかを見たいと考えていた。しかし、その数字を記載する欄がない。応募者数で考えると、抽選申込みの場合、ハガキの枚数になってしまう。ケースによっては、募集人員のほうが上回ることになる。

委員：人数が多ければ関心が高いということは間違いがない。来場者数を定員で除すことが簡単で分かりやすいのではないか。

副会長：中身が大事であって、それは率や数字では出せないと思う。参加者の意見や充実感等は参加者の声の中で反映されていると考えられるので、細かく比率を出すことを考えるよりは、募集人数がどのくらいあって、それに応募がどのくらい来て、そのうち実際に参加した方がどのくらいいたのかが出されていればいいと思う。

事務局：抽選の場合は、何名が応募されて、そのうち何名が参加できるのかわかるが、先着順の場合は、定員になり次第締め切ってしまうので、応募人数が分からない。またコンサート等の場合は、154名の定員であるが、2割の方がキャンセルや欠席をされるので、少し多めにとっている。そういう面では、公に出し難い数字もある。今までの考え方とおおり、確定した参加者数のうち、どのくらいの方が参加したのかを受講率にしたほうが分かりやすい。このままでよければ、継続したいと考えている。

副会長：講座に参加した方から先の方の思いを知りたいと思う。例えば、この講座には募集を締め切った後も300人が来たいと思っていた、ということを知ることが大事な気がする。応募がこれだけあったから、この企画をもう一度やろうという発想をできることがあると思う。私たち委員からすると、そういう市民の思いや情報のほうが知りたいと思うが、その点をどう考えているのか。

事務局：ハガキ抽選の場合、事務手続きが大変である。ことぶき大学ではハガキ抽選をしているが、ハガキの整理や当選者・落選者に対する通知等事務処理が多い。今の流れは、イベントダイヤル受付で先着順の方法をとる方が多くなっている。事務量を考えると、イベントダイヤル受付をなるべく使っていきたい。ただ、ことぶき大学の場合は、受講者等へ連絡することが多いため、ハガキ抽選の方法を続けている。

委員：どのくらいの方が関心を持って応募しているのか、総人数を把握したいが、それは事務的には難しいのか。

事務局：以前、市民大学では、イベントダイヤルから先着順で満員になった後にもどれだけの方が来たのか、カウントだけをとっていただいていた。しかし、今後も同じようにできるかどうかは何とも言えない。

委員：関心度は一番そこで分かると思う。市民企画講座の場合は、センター事務室での受付になると思うが、カウントは取られていない。

事務局：少人数の場合は、イベントダイヤルを利用せず、センター事務室での受付になる。職員が受け付ける場合も、先着順で定員に達した後はカウントを取っていないというのが実情である。

委員：とても残念に思う。

委員：事務量の問題を考えると、職員の手間をできるだけ軽減できるほうがいいと思うが、この協議会として物事を見るときには、そのテーマに対してどのくらいの関心度があることを知るほうが重要だと思う。このことを記録としてはっきり明記していただくといい。協議会の考え方と職員の実務で考えたときとでは、どうしてもズレが生じてしまうのはやむを得ない。

副会長：実践できるかは検討していただいて、協議会委員としては満足度を大事に思っているところを議事録に残していただきたい。カウントだけでも続けて伝えていただきたいと思う。諦めずに努力していただきたいと思う。

委員：センター事務室で受け付けている少人数の講座は、定員に達した後も問い合わせがたくさんあると聞いている。把握する工夫を何かしていただきたい。人数のカウントをした方がいいと思う。

事務局：検討させていただきたい。申込み開始から何日経過してから定員に達したのか、期間をはかることはできる。それで良ければ、事務的にもやりやすい。

3. 事業評価について

資料20「サタデーコンサート Vol.57」、資料21「生涯学習センターオープニングイベント第1弾」、資料22「生涯学習センターオープニングイベント第2弾」について説明。

(意見・質問)

委員：資料20について、コンサート事業に多くの人員等が必要とあるが、具体的にはどういったことか。

事務局：現状では、受付2名、会場整理1名、舞台1名、調整室で音響・照明の調整を行うもの1名と計5名が対応している。反響版やロールバックチェアの準備に時間が必要であり、また、照明器具の点検・交換等も行っている。ピアノを使用するときは、時間帯を決めて調律も行っている。

委員：受付等は市民で行えるような体制ができればいいと思う。

事務局：人員面で市民の協力をいただければ助かる。

委員：ボランティアを募る方法はどうか。ボランティアの方は立ち見で参加できるなどができればいいと思う。

事務局：検討したい。

副会長：資料22について、今は生涯学習センターを知っていただくことが一番だと思う。この場所に生涯学習センターがあることさえ知らない子ども達がたくさんいるので、生涯学習センターを広く知ってもらい、周知していく一年だと思う。その意味では、この事業は良かったと評価したい。

委員：ここに生涯学習センターがあることを知らない方は大勢いる。5月のイベントの際、参加者から生涯学習センターがあることを知らなかったと言われた。施設のPRをどのようにしていくべきかを先ず考えていただきたい。

副会長：このイベントを一回で終わらずにまた開催していただきたい。次回は、全小学校に対して周知できれば、イベントの参加できなくても、チラシを読んだ方に生涯学習センターの存在を知ってもらえるのではないかと思う。

委員：PRは継続させることが大事である。ある地域では、子ども達のお絵かき教室を開催し、そこで作った作品を飾る場所を作り、それを見た方達がコメントを書けるようにするというところを行っていた。そうすることで、子ども達はその回だけではなく、コメントを見に何回も来てくれる。継続して来てもらえる、世代間交流できる仕組みを作っていくことも大事だと思う。一度参加した方が何度も来なくなるような仕組み作りをするといいと思う。

副会長：まず周知をしていただき、市民の方に楽しんでいただけるような一歩ができればいいと思う。

委員：今回のイベントでは大学生が企画したコーナーがあった。若い方が教える立場となるコーナーを設けたことは非常に良かった。今後も是非、近隣の大学と連携していただけたらいいと思う。

事務局：このイベントは、さがまちコンソーシアムに依頼をして、学生を派遣していただいた。

オープニングイベント第4弾として、夏休み子どもフェアを企画している。今回と同じく、全館を使用して行う予定である。

PRについては、生涯学習NAVIに「受講者の声」を掲載して、市民だけでなく行政職員にも知ってもらえるようにしている。もっと工夫することが必要だと思っている。

委員：子どもの興味を引くもののリサーチ不足とあるが、参加が少ないものもあったのか。学校関係者なので、子どもが興味を持っているものは何かお伝えできるものもあると思う。

副会長：委員一人一人が持つ財産を活用していただいて、いいものを作っていたらいいと思う。

事務局：夏休み子どもフェアは、児童青少年課で作成しているイベント冊子に掲載させていただき、全校に配布する予定となっている。

委員：その冊子の配布は、いつごろを予定しているのか。子ども達は夏休みに入ってしまうので、その前に配布しないと意味がない。

事務局：夏休み前には配布されると思う。

委員：タイミングよく配布する必要がある。なるべく早めに配布したほうがいいと思う。

事務局：配布時期については、児童青少年課へ確認する。

4. その他

○生涯学習センターまつりについて

事務局：生涯学習センターまつりを10月19日、20日、21日の3日間に開催することになった。昨年までは公民館まつりとして実施してきたものである。公民館運営審議会は一般の参加団体として参加してきた。生涯学習センター運営協議会として、まつりに参加するかどうかがご意見を伺いたい。

(意見・質問)

委員：昨年の公民館まつりでは、60を超える団体が参加していた。PRには絶好の機会ではあるが、他の参加団体を優先すべきであり、内部のものは控えたほうがいいのではないか。

委員：ここ3～4年、公民館運営審議会として公民館まつりに「発表」と「展示」の両分野について参加した反省がある。「発表」については30分間の持ち時間の中で行わなければならない、また時間帯によって発表効果については気がかりである。とにかく、「発表」に限らず「展示」にしても今後具体的取り組みに当っては新たな工夫が必要で、条件によっては今回の参加は控えた方がよいかもしい。

委員：センターまつりのPRを外に向けてできればいいと思う。例えば、横断幕を外壁に出して、道路を歩いている方に見えるようにしていけたらと思う。まつりのPRを通してここに生涯学習センターがあることへのPRにも繋がる。

事務局：外壁にポスター等を貼ることは難しい。年に2～3回、外壁にポスター掲示ができるようにお願いしているが、センタービルとしては非常に嫌がる。懸垂幕を下げるスペースはあるが、ビルの管理組合に許可をいただく形となる。ただし、懸垂幕は非常にお金がかかる。予算的には難しい。

委員：ビル管理者に対する許可をいただくのは難しいとのことだが、その方策をこれから先もご配慮いただければと思う。

事務局：ビルの中で共有している場所、例えば、エレベーターの中に掲示物を貼ることはできる。また、生涯学習センターの一大イベントについては、外壁に貼れるようにお願いをしている。ビルの中の他店舗は、外壁には一切貼らせていない。その意味では、生涯学習センターは例外的である。

副会長：生涯学習センターまつりは、生涯学習センター運営協議会として参加しないということによるしいか。

委員：他の機関等にもチラシやポスターを配布して、盛り上げていただきたいと思う。アンケート等で、どういう方が利用しているのか、またどういう方が利用していないのかというデータをとることはできないか。前回のまつりではそういうことを実施していたのか。

事務局：前は公民館運営審議会の方が展示の部に参加し、独自にアンケートを作成して、来館者に対してアンケートをとっていた。

委員：それは展示を見に来た方ということか。来館した方にはどうだったのか。

事務局：発表の部ではとっていなかったようだ。展示の会場に来られた方に対して、公運審委員がアンケートを実施していた。

委員：昨年、一昨年は公民館運営審議会のPRをするためにブースを設けて展示を行っていた。発表でも公民館について、委員のどなたかにお話をさせていただいた。アンケートは、公運審を知っているか、公民館に要望があるか等いくつか項目を設け、展示スペースで行っていた。当日は当番を決めて、他のブースに来ている方にも声をかけていた。

委員：まつりに足を運ぶ方は、まつりを知っている。足を運ばない方が、まつりに出かけてみようと思えるような働きかけをしていかないと広がらないと思う。足を運んでくれた方へアンケートをとるのもいいが、ここを知らない方や知っているけど足を運ばない方に参加していただく方法を考えていけたらいいと思う。

事務局：昨年の公民館まつりでは、参加団体から実行委員会を募り、その中から企画・広報委員会を立ち上げてまつりの運営等をしていただいた。今年度はそのやり方を変え、参加団体を募る前に企画・運営委員会を市民からの公募により立ち上げた。現在6名の方が委員としてまつりの企画をしている。話し合いの中で内輪の発表だけではなく、来た方にも楽しんでいただく企画

を取り入れたいという意見があり、参加団体に対して一般の方にも参加・体験できるような取り組みを企画の中に入れていただくようお願いをしている。周知についても、参加団体全員で広報活動をするように事前説明会でお願いしている。広報については、今後も協議をしていく予定であるので、協議会の意見を企画・運営委員会へもあげていきたい。

副会長：生涯学習センター運営協議会として参加するのではなく、広報等に協力をするというにしたい。

<報告事項>

1. 市民企画講座について

今年度を実施する講座が決定したので報告する。11グループから申請があり、選考の結果、8講座を採用した。用紙のとおりである。

(意見・質問)

委員：以前、なるべく町田駅周辺ではない施設を会場にしてほしいとの意見が出ていたが、採用された講座の会場は生涯学習センターが多い。地域センター等を会場にするような話し合いを市民企画運営委員の方とされているのか。生涯学習センターに通い難い方にもいろいろな講座を受けていただきたいということで枠を定めていた経緯もあるので、可能であれば、地域のセンターで開催できるようにしていただきたいと思う。

事務局：市民企画講座の前身に地域市民講座がある。市民の方と職員が協力しながら地域で開催するという趣旨であった。今は企画の段階であるので、調整可能な部分については、応募団体に話し、検討していきたい。

1. センター長報告

(1) 教育委員会について

6月15日に定例会が行われた。報告事項は4件。町田市生涯学習センター運営協議会設置要綱の改正について、事務局を公民館から生涯学習センターへ変更した。生涯学習NAVIの発行について、年2回から6回に変更した。コラム等の読み物を掲載していきたい。2012年度のさがまちコンソーシアム事業について、9月1日、2日に全国大学コンソーシアム研究フォーラムが相模大野グリーンホールにて開催される。詳細は、次回配布したい。来年3月、相模大野駅前に相模原市民大学交流センターができる。さがまちコンソーシアムも指定管理者となれば、そこで様々な事業ができる。今回は7月20日に開催される。平和祈念展、夏休みこどもフェア、市民大学の2011年度の事業報告をする予定である。

(2) その他

市議会が8月31日から10月5日まで行われる。9月議会は前年度の決算委員会が行われている。センタービル総会が6月19日に行われた。ビルは築10年目となり、ビルとして長期修繕計画を策定し、業者を決定していきたい。どのような修繕計画を立てるのが課題である。施設の修繕について、7階の空調改修工事を行っている。7月13日までの予定である。また、和室の畳替えを行っている。未定の工事について、ホールの室外機2機あるうち、1機が壊れている。6階公民館カフェの日よけ用ロールカーテンが落下し、カフェから修繕の依頼がきている。想定していない修繕があるので、やりくりをしながら対応をしていきたい。事業について、センター内でプロジェクトをつくり、生涯学習センターとして何をすべきかを検討している。既存事業の見直し、新たな事業の構築等のプロジェクトを立ち上げて、一つ一つを具体化していきたい。来年2月の生涯学習審議会において、2013年度の事業計画を提案したいと思っている。公民館の施設の使用に関する細則について、ここの施設は営利目的では利用できない。営利目的の範囲を明確にしていきたい。食育推進計画策定準備計画について、保険企画課において庁内の連絡会を立ち上げている。庁内の連携という観点から、今後はこのような委員会に参画していきたい。現在、市民協働、子育て支援、人権施策、道路の愛称選定委員会等に参画している。貸し出しロッカーについて、2年に1回、ロッカー利用の更新をして

いる。今年9月に更新することになる。ロッカーは無料で貸し出しをする。有料化の話も出て
いるが、他の施設では無料で貸し出ししているので、生涯学習センターだけが有料とするのは難
しい。7月の事業予定について、記載とおりである。

(意見・質問)

委員：協議会で新庁舎へ参観に行くことはできないか。そういうことを考えていただけないか。

事務局：協議会の会場を新庁舎で開催することはできる。

委員：節電のため、LEDに切り替える等の検討をしていただきたい。公民館の使用に関する細則
について、日本の社会教育施設では非営利や非政治的というのをモットーに、かなり厳しく運
用しているように感じる。イギリスでは、愛好家団体が公共施設で美術展を開き、絵の具台程
度の値段をつけて作品を販売することは常識の域である。知らない人が自分の作品を見て、そ
れを買ってくれるのは一番励みになることである。そういうことを是非ご検討していただきた
い。細則・規則等で配慮していただきたいと思う。NPO団体や愛好家団体は営利団体ではな
いので、その辺をきちんと見分けていただきたいと思っている。

事務局：市としてLEDに変えることはしていない。生涯学習センターでは、省電力の蛍光灯を使用
している。ほとんどLEDと変わらない。

細則について、営利についての解釈は徐々に変わりつつあると感じている。動向が変わりつ
つある中、文章化して営利の解釈を決めていくことを躊躇していたが、実際の運用において職
員が説明をする際に必要であるということで、文章化することになった。他市の状況や現況、
法の解釈等を踏まえて、利用される方が大勢集まれ、様々なことに利用できるといったことを
考えていかなければいけないと思っている。

2. 東京都公民館連絡協議会の活動について

事務局：委員部会全体会及び第1回研修会が7月15日に国立市公民館で開催される。内容は案内の
とおりである。参加を希望する方は、丸山まで。

3. その他

特になし

<その他>

委員：自主学級の開級にあたり、記念講演会が開催されたと聞いた。例年、一般にも公開されてい
たと思うが、募集していなかったように思う。公開ではなかったのか。そうであれば、なぜそ
のようなことになったのかお聞きしたい。

事務局：今回は、「自主学級での学び方」というテーマであった。講師の方から、自主学級の受講者
に対する話しにしたいということで受講者を限定させていただいた。一般の方が聞くとわかり
にくいと思える内容だったので、自主学級の方のみにさせていただいた。

委員：今回、自主学級への応募がとても多かったと思うので、できれば次年度の開級を考えている
方にも事前に話を聞いていただいて、来年の応募へ向けていただけたら良かったと思う。せつ
かくの機会なので調整をしていただけたらと思う。

事務局：これから公開講座や自主学級自体の成果発表会も考えている。そういったところで、次年度
へ向けて考えていただければと考えている。

委員：議事録の取り扱いについて聞きたい。

事務局：議事録の修正前は、委員の個人名を入れて委員の方へ配布している。訂正後の確定版では、
「委員」とするのみで、個人名は入れずに出したい。

⇒次回以降の会議の日程

7月31日(火) 午後1時から3時

8月23日(木) 午後6時から8時

9月23日(日) 午前10時から12時